



勤賞をもらうことを楽しみにしている。」といった声もいただいた。また、児童同士で「すごいね。」等の声をかけ合うことにもつながっている。



- ・児童のアイデアを活かしたつながりの場の設定について、今後、検討していく必要がある。
- ・児童に考えさせたり、話し合わせたりしたことを継続して取り組んでいくという意識を持たせる。

### 取組の成果（効果）『キーワード 全校で取組む』

- ・自己有用感を高め、いじめ等の問題行動の未然防止を図る取組等を行い、その内容を児童に発信していくことで、どの学級でも同じことを行っていることが児童にも伝わり、全校で取組んでいるという一体感を持たせることができた。
- ・学校評価の目標として、学校を1年間休まない児童の割合を35%以上に掲げている。昨年度は30%の児童が学校を1年間休まなかった。今年度は、12月末で44%の児童が1日も学校を休んでいない。

### 今後の展開『キーワード つながり』

- ・年間を通じて自己有用感を高め、いじめ等の問題行動の未然防止を図る取組を行っていたが、取組内容、取組回数等の充実を図っていく必要がある。
- ・児童同士が繋がっていく取組を学級だけでなく、各委員会活動にも広げていきたい。また、運営委員会児童が中心となり、これまでの取組を自分たちがつなげていかなければならないという意識の高揚を図っていきたい。

### 他校へのアドバイス『キーワード 安心、安全な学校づくり』

「学校を休まない子」を育てるためには、安心、安全に通える学校づくりが欠かせないと考え、いじめ防止の取組、皆勤賞の発行、ほめほめの木の設置、いいところ見つけ週間の設定等、年間を通じた取組を行った。これらの取組を通して、児童間、教職員間で共通意識を持つことにつながった。めざす児童像からどのような取組を行うかを考えることが大切だと感じた。